

MEDTRONIC ENDURANTステントグラフトシステム 操作上のチェックポイント

操作

1. 適応に則った症例選択およびケースプランニング
2. CT 読影とステントグラフトの正確なサイジング
3. アクセスルートを選択と確認
4. 分岐型メインボディの準備(ガイドワイヤールーメンのフラッシュ)
5. グリップ上のマーカーと対側ショートリム(ゲート)不透過性マーカーの位置を透視下で確認
6. 腎動脈の位置確認(C-ARMを操作し、RAO/LAO/Cranial 視差調整) および造影
7. 分岐型メインボディの2つ目のスプリングまで展開し、透視下で再度位置確認
8. 必要に応じて引き戻し、分岐型メインボディの留置位置の微調整
9. メインボディ対側ショートリムまで展開 操作及び位置確認
10. Suprarenal ステントをリリースし、正しく完全に展開されていることを確認
11. 同側リムの展開
12. チップキャプチャーとスピンドルが完全にチップ内に再収納されていることを確認
13. チップがグラフトカバー内に完全に収納されていることを確認
14. 対側レッグへのガイドワイヤー・カニューレション(適切なカテの選択、操作)
15. カニューレションの確認の有無(カテの回転による確認作業)
16. 内腸骨動脈の造影と対側レッグの選択
17. グリップ上のマーカーと対側レッグの不透過性マーカーの方向性が一致していることを確認
18. 対側レッグ挿入前の準備及びガイドワイヤー交換
19. 内腸骨動脈の位置の確認
20. 対側レッグの留置位置の確認(フローバイダーマーカーと中枢側マーカーおよび対側レッグ末梢マーカーの位置確認)
21. 対側レッグの留置
22. メインボディ、次に対側レッグのデリバリーシステムを抜去
23. 中枢側ネック、接合部と末梢側固定部のバルーンタッチアップ
24. 最終確認造影(問題の有無の確認)
25. 追加デバイスの選択の判断、追加デバイスの操作上の確認・注意事項への配慮
26. 体内に残されている併用デバイスを抜去し、動脈切開部位を縫合